

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年11月24日

【評価実施概要】

事業所番号	1174200384
法人名	社会福祉法人 希望の里
事業所名	グループホーム なごみの家
所在地	〒367-0117 埼玉県児玉郡美里町大字猪俣3198-2 (電話) 0495-75-2020

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年11月20日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年1月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	6人, 非常勤 1人, 常勤換算 6人

(2) 建物概要

建物構造	木造ステート造り
	2階建ての1階～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
または1日あたり 1,000円				

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	72 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小林クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、社会福祉法人希望の里として2万㎡の広大な敷地に、特別養護老人ホーム、グループホーム、デイサービスセンター、在宅支援センター等が点在する中のひとつである。小高い丘の自然豊かなこの地は四季折々の花と緑に囲まれ、創設者が意図した楽園として介護の一大コミュニティとなっている。2000年に開設された当事業所では、介護行政の変遷の中で利用者本位の介護を目指し、利用者一人ひとりの思いや希望を受け止めたケアがなされている。職員は利用者が納得した上で支援を受けられるように対応に配慮し、小さな事も介護計画に落とし込み実現させている。理念の実践、記録の短縮化、アウトドアでの活動、地域の人々との交流、和気あいあいとした職員、そうした取り組みと雰囲気の中で、利用者は安心して豊かな生活を送っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の課題である事業所独自の理念については、「利用者本位の介護」を掲げ浸透している。また、運営推進会議に行政の参加をということでは、2008年4月に地域包括支援センターが開設され、会議への参加に至っている。町役場との連携に関しても取り組みが出来改善がなされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者及び職員は、自己評価の意義を理解した上で取り組みがなされている。管理者は評価項目について、職員に確認したり意見を聴きながら、日頃のケアを振り返り見直しが出来ている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議には、4グループホームの合同により開催され、各事業所の報告や取り組みについて話し合っている。当事業所に関しては、ホームの現状から具体的な議題を挙げながら意見を出し合っている。また、会議で提案した事業を行事として企画し、実施に結びついたこともある。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族には、ホームの状況や本人の暮しぶりをホーム便りや来訪時の面談などで伝えるとともに、職員が会話の中で意見や要望を聴くように心がけている。さらに、運営推進会議での家族の意見を大切にしている。また、家族が意見や苦情を表せる機会や場があることを利用契約書に謳っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>小中学生の体験学習の場として子ども達と交流している。近隣の方には野菜の作り方を教えてもらったりしている。また、ボランティア受け入れも盛んで、老人会では奉仕活動に参加している。地域の行事であるポピーまつりやコスモスまつり、ふれあい作品展などに出向いたり、花火大会の日には、地域の人々が高台にある法人の庭に集まり一緒に楽しんだりしている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念「我ら心をこめて老いの人たちを守り、この施設を誠の楽園とせん」を基に、地域とのつながりを大切にとらえ、利用者本位の介護を目指した独自の理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向けて毎日のミーティングには、法人及び事業所の理念を唱和している。また、広報『なごみの家便り』に必ず掲載して周知徹底を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小中学校の体験学習の場として子ども達と交流している。近隣の方には野菜の作り方を教わったり、老人会では奉仕活動に参加している。地域の行事であるポピー祭りやコスモス祭り、ふれあい作品展などに参加したり、花火大会の日は地域の人々が高台にある法人の庭に集まり一緒に楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は共に評価の意義を理解している。その上で管理者は評価項目について職員と確認したり、意見を聞いたりしながら、全体の振り返りをして改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、4グループホームが合同で運営推進会議を開催している。老人会会長、地域包括支援センター、副施設長、各事業所の家族と管理者が参加して、事業所ごとの報告や取り組みについて話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場福祉課の介護保険担当職員とは、認定調査や相談でお世話になっている。また、研修の受講やリハビリ体操などの資料をもらうこともあり連携を取りながら進めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月請求書とあわせて、事業所便り及び手紙を送付している。支払いに来所したり、面会時に暮らしぶりや健康状態の報告を直接家族に報告することも多い。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議で意見を吸い上げて、サービスに反映させる努力をしている。事業所利用にあたり、利用契約書に事業所の相談、要望、苦情窓口や法人本部受付、さらに第三者窓口を明記して、家族が意見や苦情を表せる機会や場があることを説明している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動や離職に関しては職員間でよく話し合い、利用者へのダメージを防ぐための対応を考えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年間スケジュールが事務所に貼ってある。法人内部の研修が多く、母体が大きいので内部研修に傾きやすいが、法人の研修委員会に管理者が入り積極的な取り組みがなされている。職員は年間の個人目標に向け努力をしており、資格取得のための学びをしている職員もいて向上心がある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加や他施設見学をしている。また、法人内部のグループホームとの交流で切磋琢磨しながらサービスの質向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が納得し安心してサービス開始となるように、訪問や面接をしたり、見学などを受け入れるなど随時関係を作る努力をしている。また、法人内のデイサービスやショートステイを利用しながら遊びにきてもらうなど、職員や利用者そしてホームの雰囲気に慣れてから入居となる場合もある。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>洗濯物をたたんだり、花の水やり、テーブル拭き、野菜作りなど出来ることを一緒にしてもらい、共に支えあいの出来る関係作りを心がけている。他にも、盆栽の手入れやぬか漬、白菜漬けなどを利用者に教えてもらいながら協働して行っている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時にプロフィールシートをまとめたり、家族と関係者の話や本人の言葉、表情から意向を汲み取る努力をしている。また、日常生活から要望やニーズを把握し介護計画に反映させている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族の意見を聴き、ケアカンファレンスで話し合い立案している。全員のプランは一覧出来るようにケースに入れ、記録とセットされている。また、記録は最大限簡略化されたフローシートとして使用され、介護計画と連動した整合性のある記載がなされている。なお、変化が生じた場合には、きちんと経過観察用紙に継続的な記録がなされている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>計画見直し日が明確に記載され実践されている。変化があった場合は、見直し用紙に本人と家族の言葉で意見が書かれ、話し合いを基調に計画が見直されている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一敷地内に法人の関連事業所が点在しており、在宅支援センターを中心に入退所が適切に行われ、本人の必要に応じた支援と家族の安心につながっている。家族の宿泊設備がホーム内にあり、法人全体で使用するゲストハウスも別途用意されている。なお、希望に応じ温泉旅行も楽しんでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診については、情報交換をしながら家族が同行している。家族から依頼があれば、職員同行も可能である。提携医師は24時間いつでも連絡出来、病状に応じた病院紹介も適切に行っている。また、母体である特別養護老人ホームの提携医師の診察日に必要があれば連絡して受診している。歯科受診についても同様である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に際し、事業所で出来る事出来ない事を個々に明確にしながら、家族や医師、看護師との話し合いをしている。「重度化に向けた指針」を説明し、方針についての承諾書を取り交わしている。実際には、母体の特別養護老人ホームへの入所や急変時には入院依頼をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する書類は、鍵のかかる場所に保管されている。守秘義務については入職時に徹底し、ホーム内外で注意を払っている。言葉かけや対応もその人に合った接し方で失礼のないように留意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の状態を見ながら希望に添うような支援をしており、職員による個々に配慮した対応や声かけが自然になされている。なお、出来るだけ一人ひとりの希望に応えるため、食べ物や居室に置きたい場合やお金を常時持っていたい方などに関しても介護計画に入れ、さりげなく気配りしながら希望をかなえている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食委員会があり、利用者の意見や食事の希望を伝え還元している。利用者は職員と一緒に野菜の下ごしらえや食器・テーブル拭きなど出来ることをしている。また、キッチンでの音や香り、話し声などを居間で楽しむことが出来る。なお、通常のメニュー以外にも、費用はかかるが希望食を注文することも可能である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回位、曜日や時間は不定期で入浴している。入浴を嫌がる方については、清拭で対応したり、声をかけながらケアを試みている。季節によっては、露天風呂や桜湯・菖蒲湯・ラベンダー湯・柚子湯など工夫を凝らして楽しんでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の作品を出品した文化祭に見学に行ったり、畑仕事や焼き芋大会をしたり、漬物作りを楽しんでいる。中庭には趣味の盆栽が置かれ、カラオケ・書道・ぬり絵・スポーツ観戦・温泉旅行等、人や時に応じて生活に張り合いが出るよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩を楽しんでいる。広大な庭内の要所に沿って椅子が設置されている。また、個人の希望により、買い物や外食、お墓参り、あるいはグループで映画やコンサートに出かけたりしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠はしていない。玄関を開けるとチャイムが鳴る工夫がされている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、通報訓練・避難訓練・消火訓練を実施している。実際の訓練参加はないが、災害時には近隣の協力要請を取り付けている。また、災害用の備蓄も万全である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が献立を立て、食材も一括購入であるが、畑の収穫物や農家からの頂きものもある。職員が食事を作っており、きざみ食の方にはさらに良く混ぜ合わせ食事介助をしたり、水分量の少ない方には食後のお茶を飲むように声をかけたりしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間には花が活けられ、季節感がある。廊下には小中学生からのお便りや利用者の作品が飾られており、広い階段には、手すり、昇降機が設置されている。キッチンが居間と対面式で、ソファで仲良く膝掛けを一緒にかけたり、肘かけ椅子で寛ぐ利用者の様子を職員が声をかけたり気配りしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々にシンク・クローゼットが設置され使い勝手が良い。クッションフロアであるが、清掃が行き届き、臭気もなく清潔である。陽射しがいっぱい入る居室で、日光浴をしながら過ごすことが出来る。好みでテーブル、椅子などを持ち込んでいる。		